

# 日商簿記検定 2 級講座

## 工業簿記

【第 2 1 回】

直接原価計算Ⅱ ②

本社工場会計

## 第 2 1 回講義の内容

テーマ 2 1	直接原価計算Ⅱ②	2 6 0 ページ
テーマ 2 2	本社工場会計	2 7 0 ページ



### 3.CVPの感度分析（P260）

#### 【設例21-4】 CVP感度分析（P260）

（資 料）次年度の予想における財務データ

1. 営業部門関連

次年度予想売上高：@400円×**500個**＝200,000円

2. 製造部門関連(次年度予想における製造原価等)



	変動・固定の区分		単価及び個数	金額
当期総 原価 102,000円	変動費	直接材料費	@40円× <b>500個</b> ＝	20,000円
		直接労務費	@30円× <b>500個</b> ＝	15,000円
		変動製造間接費	@30円× <b>500個</b> ＝	15,000円
		変動販売費	@20円× <b>500個</b> ＝	10,000円
		合 計	@120円	60,000円
	固定費	固定製造原価		24,000円
		固定販管費		18,000円
		合 計		42,000円

【問題】財務担当者のS氏は、競合他社の出現を考え、仮に**販売価格を20%値下げ**した場合の「**損益分岐点売上高（販売量）**」を検討することとした。

# 当初の販売価格400円を20%値引きし、320円として計算してみる

求めたい売上高（販売量）を「S」 or 「X」と置いて方程式を立てる

「売上高」を「S」とおく	
次期の損益計算書	
売上高	S
変動費	
貢献（限界）利益	
固定費	42,000
営業利益	

（損益分岐点売上高）  
S =                      円

「販売量」を「X」とおく	
次期の損益計算書	
売上高	320円X
変動費	
貢献（限界）利益	
固定費	42,000
営業利益	

（損益分岐点販売量）  
X =                      個

# < 追加問題 >

- (1) 仮に**変動費を10円下げる**ことができた場合の損益分岐点売上高と販売量はいくらか。
- (2) 仮に**固定費を2,000円削減**することができた場合の損益分岐点売上高と販売量はいくらか。

## (1) **変動費を10円下げた場合**

「販売量」を「X」とおく	
次期の損益計算書	
売上高	400円X
変動費	
貢献（限界）利益	
固定費	
営業利益	

(損益分岐点販売量)  
X =        個

(損益分岐点売上高)  
円

## (1) **固定費を2,000円削減した場合**

「販売量」を「X」とおく	
次期の損益計算書	
売上高	400円X
変動費	
貢献（限界）利益	
固定費	
営業利益	

(損益分岐点販売量)  
X =        個

(損益分岐点売上高)  
円



## 4.経営レバレッジ係数（P261）

### 固定費の利用度を測定する指標

経営レバレッジの本質は、**固定費(あるいは固定的生産要素)の活用による営業利益の増大にある**。この**レバレッジ係数が高ければ高いほど、売上高が増加した場合の営業利益の増加率が高く、企業の安全性は低い**。また、レバレッジ係数が低ければ低いほど営業利益の増加率が低く、企業の安全性は高いといわれる。

$$\text{経営レバレッジ係数} = \frac{\text{貢献利益}}{\text{営業利益}}$$

### 【設例21-5】経営レバレッジ係数（P261）

下記の場合の経営レバレッジ係数を算定しなさい。

損益計算書	
売上高	200,000
変動費	60,000
貢献（限界）利益	140,000
固定費	42,000
営業利益	98,000

$$\text{経営レバレッジ係数} = \frac{\text{貢献利益（ ）}}{\text{営業利益（ ）}}$$

次期の損益計算書	
売上高	5,000
変動費	3,000
貢献（限界）利益	2,000
固定費	1,500
営業利益	500



売上が20%増加したとすると

次期の損益計算書	
売上高	6,000
変動費	3,600
貢献（限界）利益	2,400
固定費	1,500
営業利益	900

『経営レバレッジ係数』は、売上が変化したときに利益がどれだけ変化するかを表している。

経営レバレッジ係数 4	=	貢献利益 (2,000)
		営業利益 (500)

売上が1変化したときに利益は4変化するということ

### 3 原価の固変分解（P262）

#### 1. 原価の固変分解とは

原価を**変動費**と**固定費**に分けること。

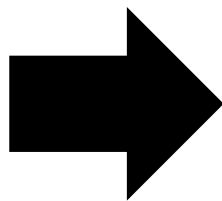
#### 【設例21-6】原価の固変分解（P263）

経理担当者のAさんは、手元にある財務会計の決算書を管理会計の直接原価計算方式の損益計算書に組み替えようと考えている。下記の設問に答えなさい。



全部原価計算方式損益計算書	
売上高	50,000円
売上原価	25,000円
売上総利益	25,000円
販管費	11,000円
営業利益	14,000円

(販売単価400円  
× 125個)



直接原価計算方式損益計算書	
売上高	50,000円
変動費	円
貢献（限界）利益	円
固定費	円
営業利益	14,000円

〔問1〕下記の空欄を埋めなさい。

財務会計における全部原価計算方式損益計算書を、管理会計の直接原価計算方式損益計算書に直すためには、売上原価と販管費を変動費と固定費に分解しないといけないが、この方法には「                      」法と「                      」法の2つの方法（2級では）がある。



[問 2]

Aさんは、売上原価と販管費を変動費と固定費に分解する方法において、「過去の一定期間内における実績データにもとづいて、最高の営業量と最低の営業量の2点の原価を利用して変動費と固定費に分解する方法」でやってみることにした。下記は部下のS君に出してもらった過去6ヶ月間の原価と営業量のデータである。これを利用して、変動費率と1ヶ月の固定費を計算しなさい。

月	原価発生額	営業量
1	5,400円	16個
2	5,180円	14個
3	5,950円	20個
4	6,050円	21個
5	6,320円	24個
6	7,100円	30個
合計	36,000円	125個



< 図解を使う方法 >

< 計算式 >

[問3] 下記の空欄を埋めなさい。

Aさんは、売上原価と販管費を変動費と固定費に分解する方法において、「過去の実績データを各費目ごとまたは勘定科目ごとに分類する方法」でやってみることにした。下記は部下のS君に出してもらった総勘定元帳における月次データである。これを利用して、変動費と固定費を計算しなさい。

< 費目別精査法による原価分解（変動・固定割合は経験に基づいている） >

勘定科目	原価発生額	変動費の割合	固定費の割合	変動費の額	固定費の額
主 要 材 料	4,700円	100%			
補 助 材 料	2,000円	60%	40%		
賃 金	10,000円	80%	20%		
給 料	8,000円		100%		
減価償却費	8,300円		100%		
電 力 料	3,000円	70%	30%		
合 計	36,000円				

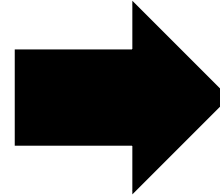


[問4] 下記のP/Lを作成しなさい。

Aさんは、問2の高低点法により、原価の固変分解を行い、直接原価計算方式の損益計算書を作成した。



全部原価計算方式損益計算書	
売上高	50,000円
売上原価	25,000円
売上総利益	25,000円
販管費	11,000円
営業利益	14,000円



直接原価計算方式損益計算書	
売上高	50,000円
変動費	円
貢献（限界）利益	円
固定費	円
営業利益	14,000円

[問5] CVP分析をしなさい。

Aさんは、問3で作成した直接原価計算方式の損益計算書を元に、下記の条件でCVP分析を行った。

(1) 当社の損益分岐点売上高を計算する。

損益分岐点売上高：

(2) 目標営業利益28,000円を達成するために必要な売上高を算定する。

目標営業利益達成売上高：

[問 6] 設問に答えなさい。

下記は社長と、Aさん（経理）、Bさん（営業）、Cさん（製造）の会話である。



（社長）

「今期は、販売量が**125**個（在庫なし）で売上高が**50,000**円だったが、次期はこれを生産量を2倍の**250**個生産してほしい。」



Cさん（製造）

「社長、生産能力の余裕があるので、生産量を2倍の**250**個にすることは可能ですが・・・。」



Bさん（営業）

「社長、生産量を2倍の**250**個にしても、その製品の販売力はまだそこまで至っておらず、**125**個が限界です。これ以上の生産は全て在庫になる可能性が非常に高いですが、よろしいのでしょうか？」



（社長）

「構わん！次期は生産量を2倍の**250**個引き上げたまえ。**125**個を超える余剰生産分は、全て倉庫に在庫として保管すること。」

(1) 社長の真意が何なのかを確かめるために、全部原価計算方式P/Lと直接原価計算方式P/Lを作成しなさい。

[計算資料] 今期125個の場合のデータは次のとおりである。当データを使って計算すること。  
 ・変動製造原価@100円/個 ・変動販売費@20円/個 固定製造原価12,500円 固定販管費8,500円

参考資料<今期の生産量・販売量>

※今期は在庫0だったとする



仕掛品

期首 0個	完成
当期 125個	125個
	期末 0個

製品

期首 0個	販売
完成 125個	125個
	期末 0個

社長指示<次期の生産量・販売量>

※今期は在庫0だったとする

仕掛品

期首 0個	完成
当期 250個	250個
	期末 0個

製品

期首 0個	販売
完成 250個	個
	期末 個

<ヒント>

BOXを書いて、生産量と販売量、在庫量を把握し、2つのP/Lを作ってみてください。

【250個生産し、125個販売した場合（125個は在庫）の損益計算書】

全部原価計算方式損益計算書	
売上高	50,000円
売上原価	円
売上総利益	円
販管費	円
営業利益	円

直接原価計算方式損益計算書	
売上高	50,000円
変動費	円
貢献（限界）利益	円
固定費	円
営業利益	円

〔問7〕設問に答えなさい。

Aさん（経理）は、管理会計の直接原価計算方式P/Lが有用だとして、これで外部報告用に出そうとしたものの、顧問税理士の先生に外部報告用では認められない旨を指摘されたので、「固定費調整」を行い、全部原価計算方式P/Lに直すことにしました。固定費調整を行いなさい。



直接原価計算方式損益計算書	
売上高	50,000円
変動費	円
貢献（限界）利益	円
固定費	円
営業利益	円
固定費調整	
加算：	円
全部原価計算方式 の営業利益	円



# テーマ 2 2

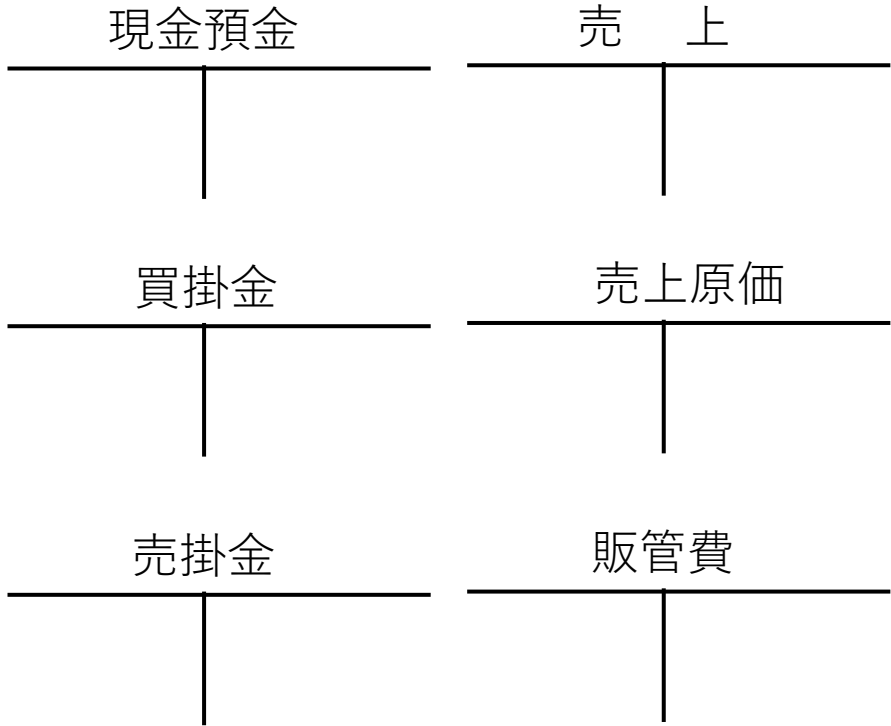
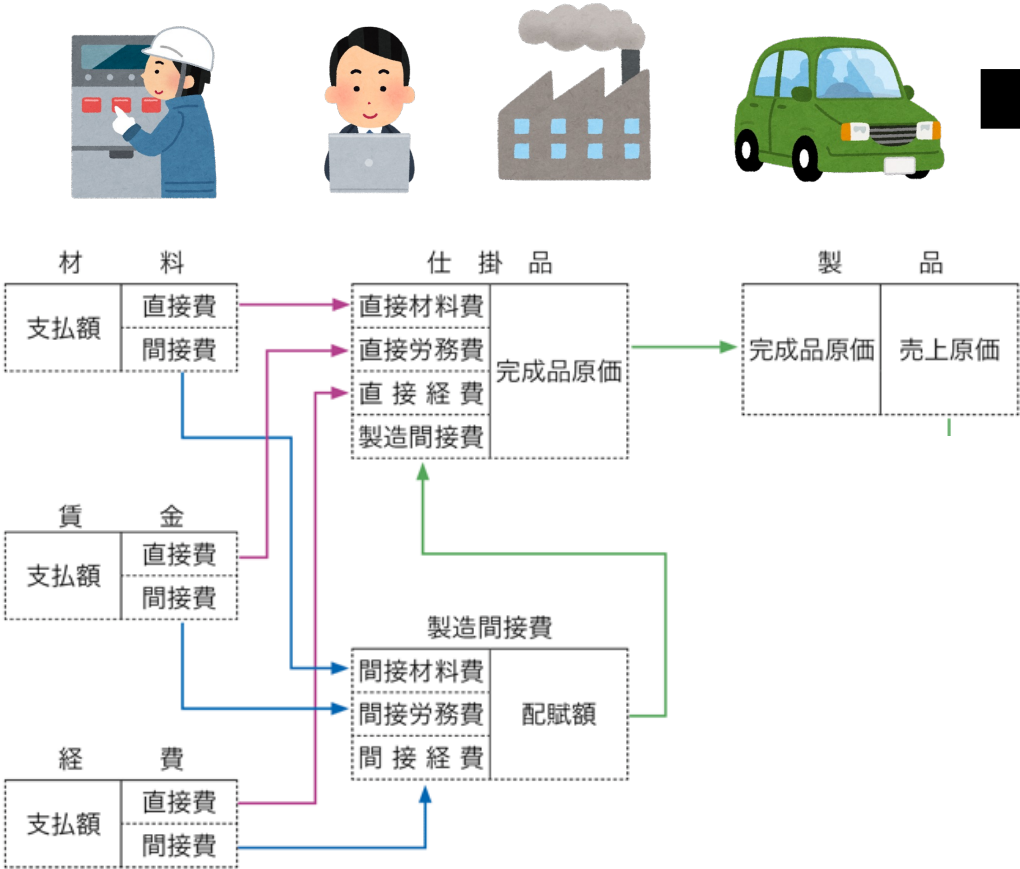
## 本社工場会計



# テーマ 2 2 本社工場会計

## 1 本社工場会計（P270）

本社と工場会計が独立している

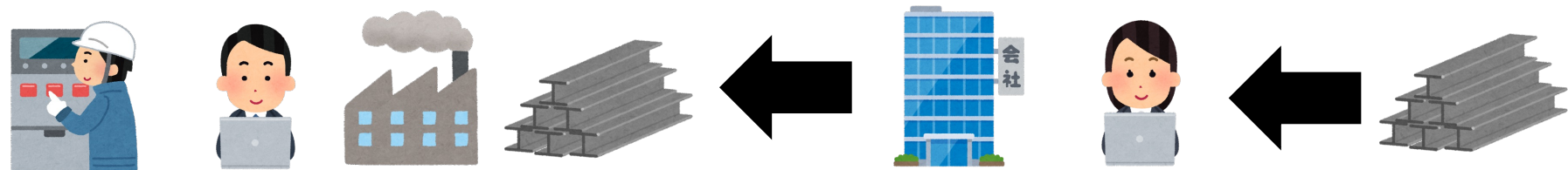


工場側の事務部門に  
工業簿記の会計帳簿を設定

本社側に商業簿記  
の会計帳簿を設定

【設例22-1】 本社工場会計（P272）

当社は、自動車の製造・販売を行う会社である。  
下記の取引について、A.工場会計が独立していない場合とB.工場会計が独立している場合の仕訳を示しなさい。

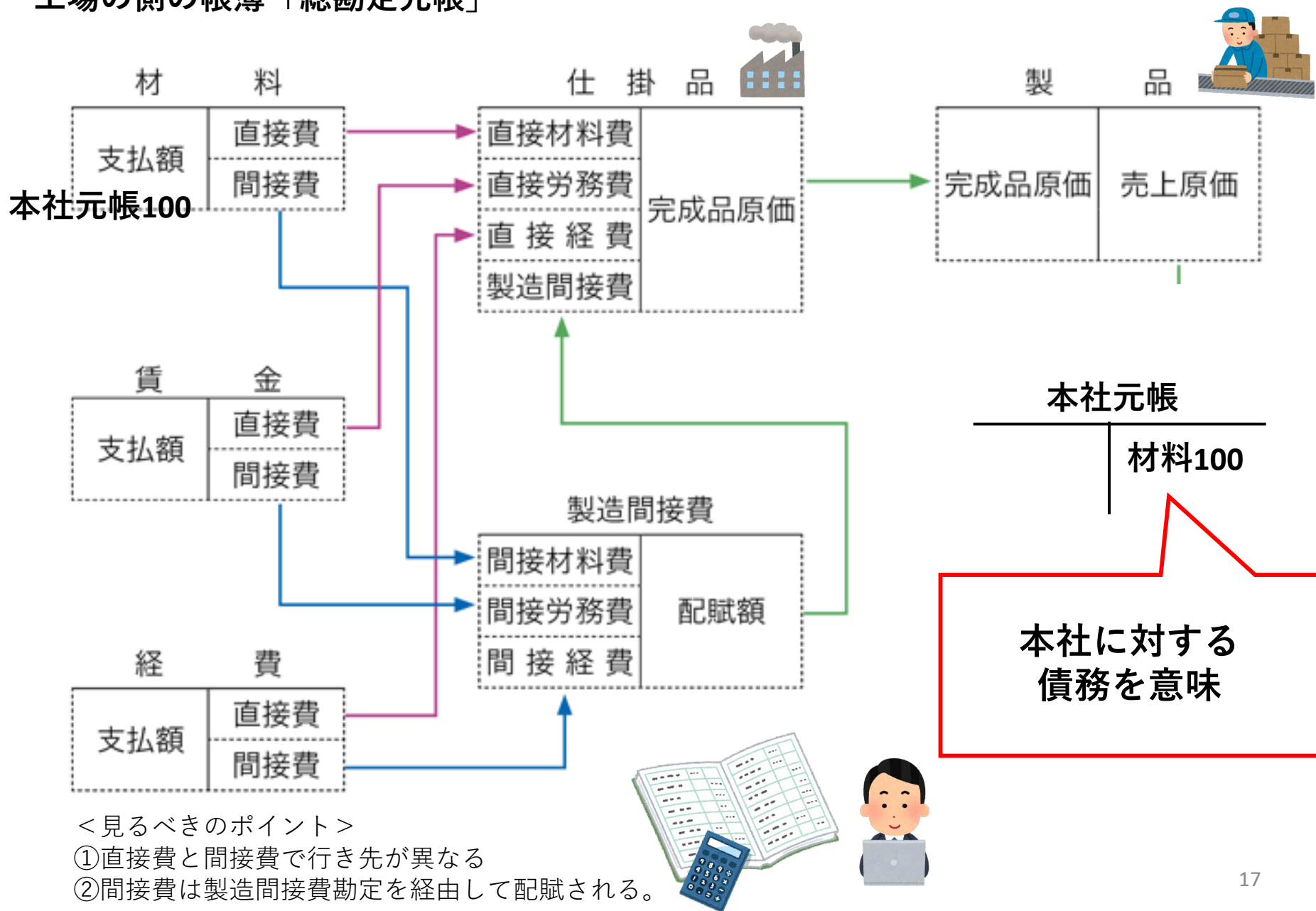


(1) 本社で材料100円を掛けて購入し、工場の倉庫に受け入れた。

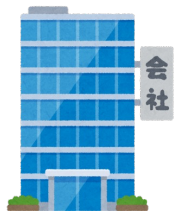
A.工場会計が独立していない場合			
借方	金額	貸方	金額

B.工場会計が独立している場合			
工場の側の仕訳			
借方	金額	貸方	金額
本社側の仕訳			
借方	金額	貸方	金額

# 工場の側の帳簿「総勘定元帳」



## 本社側の帳簿「総勘定元帳」



現金預金

売 上

工場元帳

材料100

買掛金

売上原価

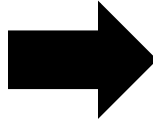
工場元帳100

工場に対する  
債権を意味

売掛金

販管費





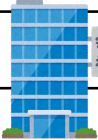



(2) 製品300円が完成し、倉庫に納入した。

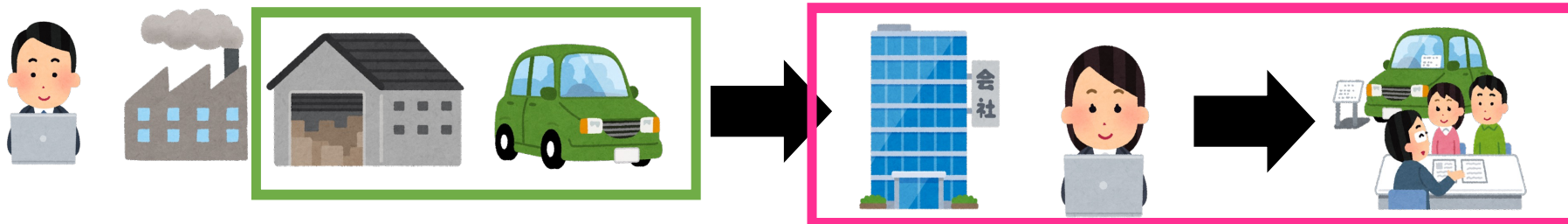
A.工場会計が独立していない場合

借方	金額	貸方	金額

B.工場会計が独立している場合

 				 			
工場の側の仕訳				本社側の仕訳			
借方	金額	貸方	金額	借方	金額	貸方	金額





(3)完成した製品300円を販売価格500円で掛け販売した（売上原価対立法）。

### A.工場会計が独立していない場合

借方	金額	貸方	金額
売掛金		売 上	
売上原価		製 品	

借方と貸方で判明する方の仕訳を先に埋めて、相手勘定を「照合勘定」で仕訳してください。

### B.工場会計が独立している場合

工場側の仕訳				本社側の仕訳			
借方	金額	貸方	金額	借方	金額	貸方	金額
製 品	300	仕掛品	300	売掛金	500	売 上	500
		製 品	300	売上原価	300		